

支所だより

各総合支所管内での身近な出来事や話題などを毎月お知らせするコーナーです。今回は、丹原総合支所から「松山道(桜三里)」について紹介します。

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地 1

TEL0898-68-7300

FAX0898-68-4769



▲国道11号桜三里、湯谷口付近（上方奥は松山自動車道）

先人の苦労をしのんで… 松山道(桜三里)

西条市丹原町湯谷口と東温市則之内を結ぶ国道11号桜三里は、春は満開の桜の色に染まり、秋には紅葉に山が燃える、大変美しい街道です。今月はこの松山道(桜三里)の歴史を振り返ります。

平成3年に編さんされた丹原町誌には、松山と道前を結ぶ松山道が非常に重要な存在であったことが記されています。寛文年間(1661〜72年)以前の旧松山道は、上落合・桜三里復興碑の所から中山川を渡り、経ヶ成を経て中山川左岸に出て、劈巖透水碑を通り、来見へと至っていました。

しかし、傾斜地に作られた細く危険な道であったため、後に上落合・笹ヶ峠・宝ヶ口を通るルートへ変更されました。その後、貞享4(1687)年には、周布郡代官矢野五郎右衛門源太によって桜や松の木など8240本が植えられ、がけ崩れなどを防ぐとともに、旅人の目を楽しませ

る街道となりました。

明治時代に入ると我が国は富国強兵を唱え、香川県善通寺に一個師団を増設し、初代師団長には乃木希典将軍が任命されました。

明治31(1898)年、乃木将軍が松山連隊を檢閲するため、笹ヶ峠から千原・松山方面へ進んだ時、松山道について「道路はすこぶる不完全にして野砲の通過し得ざる物、かつ橋梁不備の所往々あり」と述べたとされています。このため、内務省は突貫工事で国道を完成させることとなり、笹ヶ峠を避けて中山川右岸をたどり、湯谷口から落合へ、そして千原を経て、土谷・松皮峠を越す道程とし、所要時間の短縮を図りました。

大正3年と8年には、御大典記念として鞍瀬青年団によって桜三里に桜が植樹され、その後の国道11号改修時にも桜の木が植えられました。

また、昭和60年には建設省松山工事事務所の開設40周年を記念して、鞍瀬小学校(平成13年閉校)と川内町の東谷小学校の児童やPTAの協力により、山桜・枝垂れ桜・染井吉野桜が植樹されました。さらに、地元有志の尽力もあり、今に至る桜の街道が出来上がったのです。

かつての松山道は、時代の変遷とともに人馬や駕籠が通る道幅となり、明治中期ころからは人力車や客馬車が通れるよう改修され、昭和初年ころには松山行きの乗合自動車(バス)の運行が開始されるなどして、現在の道へと姿を変えてきました。

先人の苦労に思いをはせながら、紅葉の桜三里をドライブするのはいかがでしょうか。

※参考文献「愛媛県歴史の道 調査報告書第三集」



▶今も残る桜三里復興碑

松山道(桜三里)の概略図

